

# 平成 27 年度三重大学技術発表会参加報告

高田昇治

工学系技術支援室 分析・物質技術系

## はじめに

平成 28 年 2 月 5 日（金）国立大学法人 三重大学 地域イノベーション研究開発拠点低層棟 3 階ホールにおいて開催された第 24 回三重大学 技術発表会に分析系技術職員との技術交流を目的に参加したので報告する。なお、本技術発表会の開催概要では、「技術職員の活動は、各種実験や装置の維持・管理・改善、地域貢献活動、講習会の開催、安全衛生活動、その他諸技術の開発等、常に進歩を目指し、教育研究活動を支援するものとして広範にわたっています。このような技術職員の業務において創意工夫し、努力をしている中から生まれた成果を発表し、日頃の様々な経験などを述べ合うことによって、更なる技術の向上、他分野の技術情報の習得を行うとともに、技術職員の相互の交流を深めて頂くことが本技術発表会の目的である」とされている。

## 技術発表会に参加して

三重大学病院前より歩いてキャンパス内に進むと右側に大学附属病院が見える。しばらく道なりに進むと今回の会場が左側にあった。（図 1 会場の案内）受付において外来者に対して LAN 環境の提供をしていただいた。大変感謝しています。午後 13 時より開会式が開催され、実行委員長のと藤浩氏による挨拶があった。また、引き続き工学部長の清水真先生より挨拶があった。（写真 1 参照）何事においても失敗から学ぶことの大事さを説明されて、本発表会の

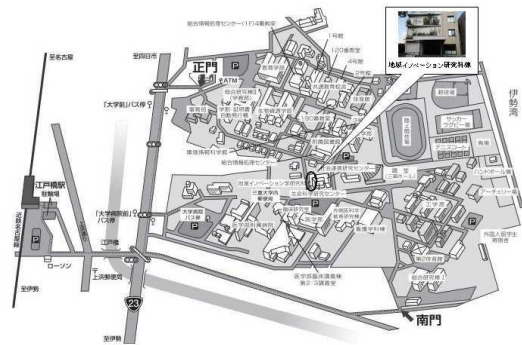


図 1 会場の案内（三重大 HP より）



図 2 工学部部長挨拶の様子

発表がステップアップするためのものになれば、個人にとっても大変すばらしいことで、さらに成果を参加者全員で共有することにより、全員が何らかの形でステップアップできればいいと思うと述べられました。引き続いて、平成 27 年度(第 24 回) 三重大学技術発表会が始まりました。

技術発表は、3セッションで構成されていた。発表は、三重大学からだけではなく、名古屋大学、静岡大学、名古屋工業大学、福井工業高等専門学校から発表があった。発表は、口頭発表のみでポスター発表は企画されていなかった。発表は、全部で 14 件プログラムされていた。

発表の講演時間は 10 分間で、質疑応答時間は 3 分間で実施された。セッション 1 では、三重大農場新製品梅酒の梅の実ジャム製造への取り組み、平成 26 年度学長裁量経費による海外視察研修報告(マレーシア)および心筋梗塞モデルラットの作製方法についての発表があった。医学や農学などの多様な分野からの技術発表があった。更に、「透過型電子顕微鏡用の電圧印加サンプル作成方法の検討」というタイトルで名古屋大学 全学技術センター工学系技術支援室 分析・物質技術系から樋口公孝が発表した。(写真 2 参照) セッション 2 では、技術部での研修報告やネットワーク関連の発表があり、積極的な議論が行われた。セッション 3 では、中学生向け公開講座における電子回路工作、断面にテーパや円弧を有するノズルの内面加工、桐山製作所 ガラス細工講習 参加報告、ガラス加工室の紹介およびコンクリート構造物の劣化診断用調査機器の紹介についての発表があった。更に、最後には実行委員長 和藤浩氏より、「三重大学工学研究科建築学専攻構造マネジメント講座所有の機器を中心に」というタイトルで発表があった。

すべての発表が終わったあとに、閉会式が開催され、発表会が終了した。閉会后、会場を生協に移して親睦のための懇親会が開催された。三重大学の複数の学部から技術職員が参加していた。個人的には、三重大学と静岡大学から参加していた技術部組織のトップのメンバーと組織の在り方や人事交流などについて議論することができて大変有意義な懇親会となった。

分析系技術職員だけでなく他の分野の技術職員とも有意義な技術交流を行うことが出来た。このような機会を与えていただいた三重大技術部の関係者の皆様に感謝致します。



写真 2 発表会の様子